

# 甲友会通信

第44号  
令和02年11月  
甲友会

今年は、毎年恒例の甲田先生の研修会も、他の行事と同様に、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となりました。

そこで今回は特別に、甲田先生に原稿をお願いし、甲友会通信に掲載することと致しました。大変ご多忙の中、快く応じてくださった甲田先生。本当にありがとうございます。



## 「新型コロナウイルス感染症の予防策と透析」

甲田内科クリニック 甲田豊

新型コロナウイルス感染症（新型コロナウイルス）は、二〇二〇年一月にその脅威が明らかとなり、ほぼ一年が経過しようとしています。幸い新潟県の透析患者さんには一例の発症もなく、皆様のご協力の賜物と感謝しています。制約ばかりで患者さんも医療者もそして社会全体がストレスで溢れています。しかし、新興感染症は必ず収まります。まもなくその日が来ると信じて、もう少し頑張ります。

この文章は十一月四日に甲友会に寄稿しました。新型コロナウイルスの新たな情報は日々発生し、瞬時に更新されます。誰も経験したことのない騒ぎであり、対応は不明な点ばかりです。しかも要入院感染症であることから個人情報秘匿性が強く、集計値も含めて情報の正確性に疑問な点があることも事実です。断言できないところが多数あることをご理解いただければ幸いです。

普通のコロナウイルスは毎年冬に風邪症状を引き起こしますが、今回の新型コロナウイルスは以下の点で実にやっかいなウイルスです。

(一)、無症候者にも相当強い感染能力があります。症状の出る二日前から発症十日後まで感染性があります。無症候者から感染するということは、どんなに厳密に対応しても院内感染や家庭内感染が起こります。

(二)、会話でも形成されるようなマイクロ飛沫（エアロゾル）

による感染が疑われています。関係性を大切にしている我々にとって密な会話もできません。

(三)、ウイルスの遺伝子変異（すぐに新たな形になり免疫から逃れること）が早く、さらに感染してもその抗体価は持続しないようです。これではワクチンの効果も疑問になります。

(四)、PCR法という優れた検査法がありますが、それでも感度は低く、二十〜三十%くらいの感染者は見逃されますし、結果の判明は一日後です。

(五)、特効的な治療はまだなく、インフルエンザのように治療できない現状です。

以上のような悪条件を考慮し、まず考えうる対策から始めることとなります。ウイルスの感染経路は、接触感染と飛沫感染であるため、それぞれに対応しなければなりません。

### ●【接触感染対策】

手洗いやアルコール消毒のことです。口や鼻からの侵入を防ぐため汚れた手で顔にさわらないようにしてください。机の上やドアノブなど多くの人が触るところ（環境表面）の清潔も大切です。

ただ、これまでの相当な対策が敷かれてきた環境であっても、現在も爆発的に感染者が増える状況を見ると、おそらく接触感染は主体ではないでしょう。これらの防御の重要性は薄れ、ゼロリスクを求めるほど神経質にならなくともよい時期に来ているように感じます（あくまで私見）。ただ、インフルエンザやほかのウイルス感染を防ぐ効果はありますので引き続き続けてください。

### ●【飛沫感染対策】

まず、多数の人との三密（密集・密閉・密接）を防ぐこと、屋内では全員がマスクをつけることです。エアロゾル感染であることを考えると、透析室のように、特に人が集まる場所は換気とマスクが最重要です。また、感染者の唾液中ウイルス量は驚くほど多いことが判明し、唾液を介する可能性が注目されています。つまり、大勢集まったの、マスクをはずして話しながらの会食、密室でマスクをはずして大声で歌うカラオケボックス、狭い部屋でマスクをはずして息を弾ませるエクササイズジム、などは感染リスクがとても高くなります。また、透析室はどうしても密にならないことをえまません。たとえ症状がなくとも院内では常にマスクをつけることは重要です。たとえ冬でも換気は必要ですので、暖かいものを着てくるなどご協力をお願いします。

高熱のある人は前もって連絡してください。蔓延状況によりますが、透析時間帯を変える、透析ベッドを移動してもらいなどの感染対策が必要になります。新潟県ではPCR検査や抗原検査で感染が確定すれば、重症度によらず指定病院に入院することになっています。

全国の透析患者さんの感染者数は、三学会合同委員会の調査によれば、十月三十日時点で二八七名、死亡者四三名（致死率十五%）です。一般人口の致死率二%と比べるとかなり高率にみえますが、年齢を調整するとそれほどではありません。高齢であることは、透析患者さんでも一般人と同様に大きな予後因子のようです。合併症をもった人は要注意ですが、しっかりと透析を受け栄養をつけるなど、普段の療養を大切にしていれば、一次免疫と抵抗性は保たれます。

これから冬にかけてインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行は懸念事項です。しかし、マスク・手指衛生・三密回避が励行された本年の一月〜三月はインフルエンザは流行しませんでした。今、行っている対策はこの点では大きな意味がありそうです。この難難もきつと乗り切れると信じています。

最後に、新型コロナウイルスはどんなに気をつけていても、人間特有の関係性のなかで生きている限り、誰もが感染する可能性があります。自己責任を追究したり誹謗中傷したりは、巡り巡って自分に戻ってきます。暖かい言葉こそ病んでいる人には宝物になることは、病氣と闘っている皆様にはよくお判りのことと思います。これからは寛容の気持ちでお願いします。

